

平成24年度 教科に関する研究
研究主題「思考力・判断力・表現力をはぐくむ学習指導の展開」

国語

論理的に思考し表現する能力をはぐくむ国語科学習指導の展開

—交流する場の工夫と論点の明確化を図る授業づくりを通して—



目 次

平成24年度 教科に関する研究

研究主題「思考力・判断力・表現力をはぐくむ学習指導の展開」

1 主題について	1
2 授業研究	
【授業研究1】論理的に思考し表現する能力をはぐくむ国語科学習指導の展開 —小学校第4学年「ポスターを作って、本を紹介しよう」にお ける作品の面白さを表現したキャッチコピーを交流する活動 を通して—	4
【授業研究2】論理的に思考し表現する能力をはぐくむ国語科学習指導の展開 —小学校第5学年「ロングヒット作品のひみつはどこにあるの か探ろう！！」における思考の流れを可視化し、2段階にメ ンバーチェンジする交流タイムを通して—	9
【授業研究3】論理的に思考し表現する能力をはぐくむ国語科学習指導の展開 —中学校第1学年「昔話のルーツを探る」における古文に書か れた昔話を紹介し合う活動を通して—	14
【授業研究4】論理的に思考し表現する能力をはぐくむ国語科学習指導の展開 —高等学校第3学年「小説を読む」における読みを深化させる ための2段階の交流の工夫を通して—	19
3 研究のまとめ	24

教科に関する研究主題：「思考力・判断力・表現力をはぐくむ学習指導の展開」

平成21・22年度の2年間の研究では、学習指導要領や学校教育指導方針の趣旨を踏まえ、児童生徒に思考力・判断力・表現力をはぐくむことを目指して、創意工夫を生かした特色ある学習指導の研究を行った。平成23・24年度は、先の研究成果を踏まえて、より実践的な内容として、教科ごとに主題を設定し、研究を進めた。

国語科研究主題

論理的に思考し表現する能力をはぐくむ国語科学習指導の展開
－交流する場の工夫と論点の明確化を図る授業づくりを通して－

1 主題について

(1) 国語科の目標について

小学校学習指導要領解説国語編（平成20年8月 文部科学省）（以下「小学校解説」という。）、中学校学習指導要領解説国語編（平成20年9月 文部科学省）（以下「中学校解説」という。）、高等学校学習指導要領国語編（平成22年6月 文部科学省）（以下「高等学校解説」という。）に、国語科の目標が次のように示されている。

「小学校国語科」 平成20年3月

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

「中学校国語科」 平成20年3月

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

「高等学校国語科」 平成21年3月

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

（下線、波線部は本資料作成者による。）

下線のように、「国語を適切に表現し正確（的確）に理解する能力を育成」することを文頭に示し、国語の能力の根幹となる、国語による表現力と理解力を育成することが、国語科の最も基本的な目標であることを述べている。さらに、波下線のように小学校及び中学校、高等学校において、一貫して「思考力」を養い、伸ばすことを重視している。

(2) 論理的に思考し表現する能力について

平成20年1月の中央教育審議会答申（以下「答申」という。）では、小学校・中学

校・高等学校を通じて「論理的に思考し表現する能力」を育成することを重視し、改善の具体的な事項に、次のように示している。

改善の具体的な事項（抜粋）

（小学校）

(ア) （中略）課題に応じて必要な文章や資料等を取り上げ、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、相互に思考を深めたりまとめたりしながら解決していく能力の育成を重視する。

（中学校）

(ア) （中略）小学校で習得した能力の定着を図りながら、中学校段階にふさわしい文章や資料等を取り上げ、自ら課題を設定し、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、他者と相互に思考を深めたりまとめたりしながら解決していく能力の育成を重視する。

（高等学校）

(ア) （中略）文章や資料等を的確に理解し、論理的に考え、話したり書いたりする能力を育成することや、我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度の育成を通して、感性や情緒をはぐくむことを重視する。

（下線部は本資料作成者による。）

以上のように、国語科の学習では、（他者と）相互に思考を深めたりまとめたりしながら解決していく能力や、論理的に考え、話したり書いたりする能力を育成することを重視することが示されている。このことから、研究主題を「論理的に思考し表現する能力をはぐくむ国語科学習指導の展開」と設定した。

(3) 研究の基本方針

平成22年度の研究では、研究主題を「読んで考えて表現する国語科授業の創造」とし、「内容をとらえる（読んで）」「論理的に思考する（考えて）」「内容を再構成したり、考えを論じたりすることを通して、論理的に表現する（表現する）」活動に重点をおいて授業づくりを行った。その結果、児童生徒は、書かれている内容を客観的・分析的に捉えることができるようになった。しかし、読んで考えたことを深めることには課題が見られた。

そこで、本研究では、前回の成果と課題を踏まえ、読んで考えたことを深めるために、読むことの学習過程の中に互いの考えを交流する場を位置付ける。具体的には、同じ考え同士の者と交流する場や異なる考え同士の者と交流する場を意図的に設定していく。また、何について意見を交流するのか、交流する論点を明確に示し、互いの考えの共通点や相違点を見いだしたり、他者の新たな考えから自分の考えを修正したり確かにしたりしていけるようにする。具体的には、「比較する」「順序立てる」「分類する」「関係付ける」「推論する」などの思考の仕方を活用し、教材や他者の考えを自分に引き寄せ、自分の考えを明確に表現することができるようにしていく。

このような交流の場の工夫や論点の明確化を通して、論理的に思考し表現する能力をはぐくんでいく。

(4) 主題に迫るために

- ・ 課題解決に向けて、同じ考え同士や異なる考え同士の者と交流するような場を工夫していく。
- ・ 「比較する」、「順序立てる」、「分類する」、「関係付ける」、「推論する」などの思考の仕方を活用し、交流する論点を明確にしていく。

この2点を踏まえ、具体的な手立てを講じた授業研究を行う。

2 授業研究

授業研究に当たっては、小学校2校、中学校1校、高等学校1校で実践し、授業研究ごとに分析・考察した。

【授業研究1】

論理的に思考し表現する能力をはぐくむ国語科学習指導の展開 ー小学校第4学年「ポスターを作って、本を紹介しよう」における作品の 面白さを表現したキャッチコピーを交流する活動を通してー

1 単元名 ポスターを作って、本を紹介しよう「かげ」

2 単元の目標と観点別評価規準

○本や文章には目的に応じた読み方があることに気付き、それぞれの目的に合った読み方で読もうとする。(関心・意欲・態度)

○読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方の違いに気付くことができる。(読むこと)

○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることを知ることができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
目的による読み物や読み方の違いに興味をもち、自分の読み方について振り返って考えようとしている。	「かげ」を読んで印象に残ったことを交流し、一人一人の感じ方の違いに気付いている。	文の種類による言葉や表現の違い、キャッチコピーの働きを理解している。

3 単元について

(1) 児童観 (平成24年6月20日実施 調査人数18人)

本学級の児童は、前単元「一つの花」において、題名の意味や登場人物の気持ちの変化、作品の時代背景などの中から、自分が強く感じたことを一つ選び、紹介文に書く活動を行った。その結果、場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の気持ちの変化や情景について、叙述を基に自分なりに想像して読む力が付いてきた。しかし、紹介文の交流を通して、根拠となった理由を押さえ、明確に互いの感じ方の違いに気付くことができた児童は8人とどまった。

(2) 教材観

本教材「かげ」は、作者ニコライ＝ストラコフが、森の様子をじっくり観察してきたことを基に書かれた動物記と呼ばれるジャンルの作品である。教材文は、幼い子グマが見えない相手「かげ」をつかまえようとして格闘するが、得体も知れない相手に翻弄され、結局、強敵と考え逃げてしまう展開になっている。その子グマの行動は、客観的に眺めている作者や読み手である児童にとって、あどけなく滑稽な景色に映ることだろう。ここでは、既習の文学作品との違いに気付くとともに、「かげ」を読んで感じたことや思ったことを交流する活動を通して、一人一人の感じ方の違いに気付かせていきたいと考える。

(3) 指導観

本単元では、本を紹介するためのポスターを作るという、単元を貫く言語活動を設定する。ポスターを構成する中で、短い言葉で注意を引くキャッチコピーに注目させ、読み手が本に興味を湧くようなポスターのキャッチコピーを作る活動を行っていく。そのために、まず、様々な作品のポスターを提示し、キャッチコピーやイラスト、登場人物の紹介等を取り入れたポスターの形式を理解させていくようにする。次に、「かげ」を読み、印象に残ったところやよいと思ったところを捉えて、ポスターに表す。そして、ポスターのキャッチコピーを通して交流し合い、「登場人物の様子」、「話の続き」、「情景描写」などの視点に沿って分類し、友達が作品のどのよ

うなところを気に入ってそのようなキャッチコピーを作ったのか、一人一人の感じ方の違いに気付かせていくようにする。このように、キャッチコピーを比較、分類する活動を通して、互いの感じ方の違いに気づき、論理的に思考し表現する能力をはぐくみたいと考え、本主題を設定した。

4 単元の指導計画（8時間扱い）

第1次 読書する目的や本の種類による読み方の違いについて考える。・・・2時間

第2次 「かげ」を紹介するポスターを作る。・・・4時間

時	主な学習活動	評価規準
1	ポスターによる本の紹介の仕方について、知る。	本を紹介するポスターを作るという活動を理解し、本の何を紹介するか考えようとしている。 (国語への関心・意欲・態度)
2	ポスターを作るために「かげ」を読み、あらすじをまとめ、キャッチコピーを考える。	情景描写や心情表現、行動などについて、叙述を基に想像して読んでいる。 (読む能力)
3	「かげ」を紹介するポスターのキャッチコピーを作る。	読み手が興味をもつようなキャッチコピーを作っている。 (読む能力) (言語についての知識・理解・技能)
4	ポスターのキャッチコピーを紹介し合い、仲間分けをする。 (本時)	キャッチコピーの交流を通して、一人一人の感じ方の違いに気付いている。 (読む能力)

第3次 紹介したい本を選び、ポスターを作る。・・・2時間

5 本時の授業

(1) 目標

どの叙述を基にキャッチコピーを作ったのかグループで交流することを通して、一人一人の感じ方の違いに気付くことができる。

(2) 主題に迫るための手立て

キャッチコピーの基となった叙述を明確にしなが、キャッチコピーの表現を比較したり分類したりする活動を取り入れる。

(3) 準備・資料

本文が書いてあるワークシート、キャッチコピーを書いた短冊、本文の拡大図

(4) 展開

学習活動及び内容	指導上の留意点・評価（評）
1 本時の学習課題をつかむ。 <u>どうしてそのキャッチコピーにしたの？</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に作成したポスターを教室内に掲示し、いつでもそれぞれの違いに目が向くようにしておく。 ・ポスター全体から受ける印象ではなく、キャッチコピーが作品のよさを端的に表現しているものになっているかどうか、キャッチコピーそのものに注目するよう助言する。 ・4, 5人のグループでの交流とし、リーダー、サブリーダーを決めておく。 ・学習の流れとその目安となる時間を提示し、児童が見通しをもてるようにする。 ・各自のキャッチコピーは短冊に書いて提示し、用いた記号や文末表現などから、表現の違いに気付けるようにする。 ・各グループに本文が書いてある1枚のワークシートを配布し、各自が作成したキャッチコピーの根拠となる部分を色分けして線を引かせ、根拠とした部分が比較
2 本時の学習の流れを知る。 《グループ》 ①キャッチコピーを発表し合う。 ②にているところと、ちがうところを見付ける。 【比較】 ③仲間分けをする。 【分類】 ④話し合ったことを発表する。	
3 どの叙述を基にキャッチコピーを作ったのか交流し合う。 (1) グループでキャッチコピーとその根拠を発表する。 (発表者) ・私は「かげ」に「○○○○」というキャッチコピーを付けました。理由は「かげ」の「・・・」というところから、～ということを読	

み手に伝えたいと思ったからです。

(聞き手)

- ・読み手に～を伝えたいAさんの気持ちがよく分かりました。
- ・どういうことを読み手に伝えたいのか、もう一度発表して下さい。
- ・Bさんは、読み手に～ということを伝えたいのだと思いますが、Bさんどうですか。

(2) 共通点、相違点を見付ける。

【比較】

- ・Cさんは「子グマは、かげをつかまえられるのか」、Dさんは「子グマは、かげが分かるのか」というキャッチコピーを作りました。使っている言葉は違いますが、どちらも、読み手がこの続きを知りたくなるように表現されています。

(3) グループの意見の仲間分けをする。

【分類】

- ・子グマがどうなるか、話の続きを考えさせる表現が多いね。(話の展開)
- ・こっちのキャッチコピーは、子グマの様子を表現しているよ。(登場人物の様子)
- ・すてきな森の中の様子が表れているよ。(情景描写)

(4) 全体で交流し合う。

- ・私たちのグループは、「かげ」の続きを読み手に考えさせる仲間と登場人物の様子を伝える仲間に分けました。

4 本時の学習を振り返る。

- ・どうしてそのキャッチコピーになったのかが分かった。
- ・違う表現のキャッチコピーでも、印象に残ったところが同じになることがある。

5 次時の学習への見通しをもつ。

しょうかいしたい本のポスターを書こう。

しやすいうようにしておく。

- ・聞き手は、発表者のキャッチコピーのよさを認めたり、そのキャッチコピーを作った理由を尋ねたりすることで、共通点や相違点を見付けられるようにする。
- ・キャッチコピーを作成した理由を説明するのに戸惑っている児童には、聞き手や教師が根拠となる叙述を推測しながら尋ねていくようにする。
- ・全員が話合いに参加できるように、リーダーには聞き手に発言を促したり求めたりしながら話合いが進むよう助言する。
- ・読み手は、キャッチコピーからこの作品をどのように受け止めるかという視点でも話し合うようにする。
- ・印象に残ったところや紹介したいところと作成したキャッチコピーを比較して、気付いたことを話し合うようにする。
- ・②の活動を基に、リーダーが仲間分けをして、グループで検討する。
- ・仲間分けした短冊のキャッチコピーを模造紙に貼り、似ているところに着目して見出しを付けていくようにする。
- ・発表の際には、キャッチコピーを仲間分けをした視点を説明させていく。
- ・各グループでキャッチコピーを分類した視点を整理し、本文の特徴である「話の展開」、「登場人物の様子」、「情景描写」について押さえていく。

評「かげ」のキャッチコピーを交流を通して、一人一人の感じ方の違いに気付いている。(観察・振り返りカード)

- ・次時は、各自のおすすめの本についてのポスター作りをすることを知らせ、意欲をつなげていく。

6 授業の実際

(1) キャッチコピーの特徴を捉えて表現する活動

読み手の興味を引き付ける簡潔な表現にするために、「かげ」を紹介するキャッチコピーは、字数は20字以内と制限した。しかし、児童が作った最初のキャッチコピーは、自分が興味を引かれた文章中の叙述をそのまま用いてしまった表現が多く見られた。

そこで、体言止めや言い切り、呼び掛け、比喩などの表現方法を盛り込んだキャッチコピーのモデルを提示し、それらの表現方法を用いて、「キャッチコピーをバージョンアップしよう」という活動を試みた。その結果、児童は、作品のよさがよく伝わるように一番ふさわしい言葉を選んで表現したり、読み手に伝わりやすい効果的な表

現を考えてキャッチコピーを作ったりすることができるようになった。また、一つ一つの言葉を深く考えて選ぶことで、紹介したい理由も更に明確になった。児童の中には、一つだけ考えて満足することなく、二つ、三つと意欲的に作って行く児童も見られた。資料1は、効果的な表現を用いて作成したキャッチコピーのポスターである。

これらのことから、キャッチコピーの特徴を捉えて表現する活動は、読み手をより引き付けるために言葉を吟味して、簡潔に表現する力を身に付けることができたと考える。

資料1 キャッチコピーを生かしたポスター

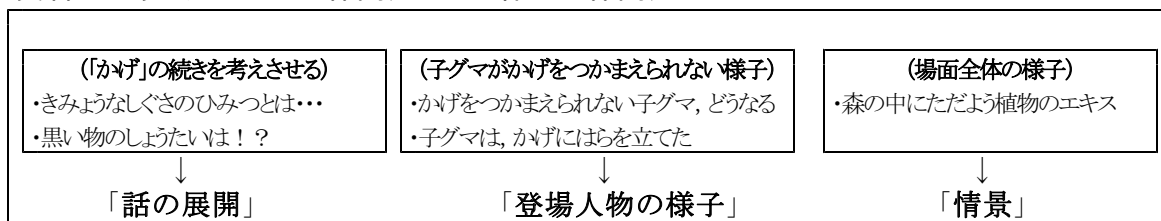


(2) キャッチコピーを分類したり関係付けたりする活動

交流の際には、本のよさを紹介するために、作成したキャッチコピーを分類したり関係付けたりする活動を行った。

そのために、まずそれぞれのキャッチコピーを短冊に書き込ませた。これは、ポスターに掲載するために作成したものであるため、言葉も吟味されており、用いた記号も分かりやすいため、児童はキャッチコピーのよさを容易に捉えることができた。また、資料2にあるように、体言止めや「…」の表現に着目したことで、書き手の意図の理解を深めることができた。

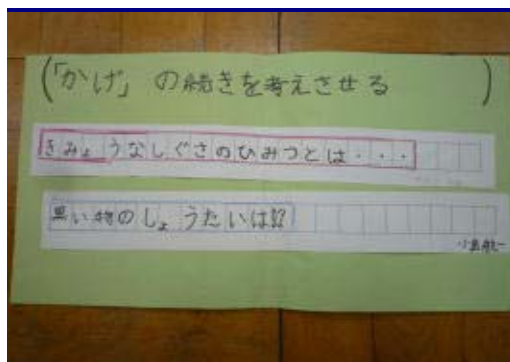
資料2 あるグループの仲間分けと全体での仲間分け



比較検討の場では、資料3に示すようにキャッチコピーを記した短冊を用いて、グループ内で分類をし、どんなキャッチコピーの仲間なのか短くまとめた言葉を考える活動を行った。短冊を動かしながら互いの意見を交わしたため、短冊と児童の考えの変化が重なり、短冊のまとまりから言えることについて容易に考えることができた。

また、キャッチコピーに表した根拠をより明確にできるように、各グループに1枚ずつ「かげ」の本文のワークシートを配付し、キャッチコピーに表した理由として選択した部分に線を引かせた。本文を印刷した

資料3 短冊に記したキャッチコピー



ワークシートを用いて考えさせたことで、キャッチコピーに表れた表現からだけでなく、本文に基づいた根拠も明らかにすることができるようになり、キャッチコピーと叙述を関係付けることができたと言える。

全体で発表する際にも、資料3のように分類した短冊をそのまま使用し、短くまとめた言葉を比較検討した。児童は他のグループの

分類の仕方を聞きながら、自分たちの分類の仕方や短くまとめた言葉の共通点を見出していた。最終的には、クラス全体の話合いで、資料4のように、「話の展開」、「登場人物の様子」、「情景描写」に分類することができた。

これらのことから、キャッチコピーの短冊を操作することにより、キャッチコピーを根拠や表現に基づいて分類したり関係付けたりする思考力が身に付いたと言える。

資料4 全体での仲間分けの様子



(3) 話合いの進め方の活用

比較したり、分類したりする話合いがスムーズになるように、「話合いの進め方」という手引きを作成した。「話合いの進め方」には、話合いの手順や例文も提示し、話すことが苦手な児童でも発言をためらうことなく、話合いが進められるようにした。また、一方的な発表で終わらない交流にするために、例文には「〇〇さんは、～を伝えたいと思うのですが、〇〇さんどうですか。」などと、相手の意を汲み取る言い方も提示した。例文を活用し、自分の思いがうまく伝えられない児童の意図を汲み取ることができ、論理的に思考し話合いを進めることに有効であったと言える。

7 成果について

本時の学習の終わりに書いた振り返りカードと授業の観察の結果から、児童が「感じ方の違いに気付く」ことの実態を図1のように捉えた。「一つの花」の学習後と比べて、「明確に気付いている」児童が7人増えた。互いの感じ方に違いがあるのは気付いていたが、キャッチコピーを分類したり関係付けたりするという交流を通して、どのようところが違うのかを明確に示すことができる児童が増えた。また、違いを明確に示すことができていた児童も、「一つの作品でもいろいろな見方ができることが分かった。」と、いろいろな読みの視点があることに気付いていた。

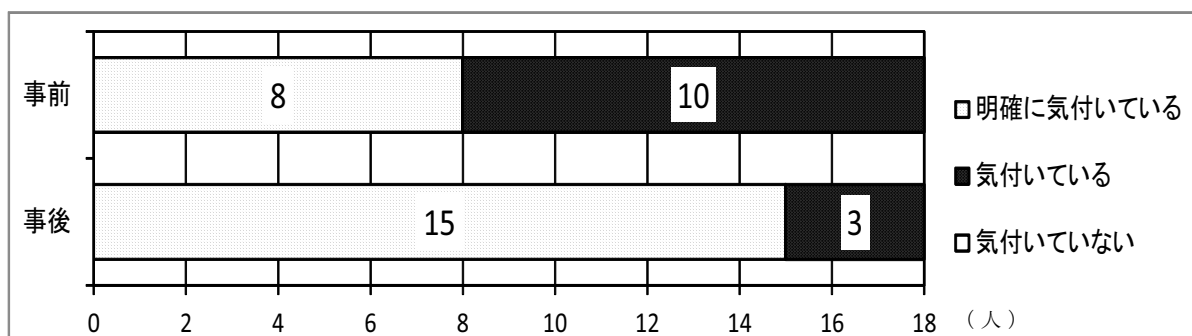


図1 感じ方の違いの気付きの実態調(事前平成24年6月20日実施 事後平成24年7月13日 調査人数18人)

- (1) 根拠を明確にしなが、作品の面白さをキャッチコピーに表すことで、作品を読み深め、自分の思いを簡潔に表現することができた。
- (2) キャッチコピーの根拠や表現を基に、関係付けたり分類したりすることで、論理的に思考する力をはぐくむことができた。
- (3) 話合いの進め方の手引きを用いたことで、交流の仕方や、どのように相手に伝えたらよいかのかが分かり、論理的に表現する力を育むことができた。

【授業研究 2】

論理的に思考し表現する能力をはぐくむ国語科学習指導の展開

ー小学校第5学年「ロングヒット作品のひみつはどこにあるのか探ろう!!」における思考の流れを可視化し、2段階にメンバーチェンジする交流タイムを通してー

1 単元名 ロングヒット作品のひみつはどこにあるのか探ろう!!「注文の多い料理店」

2 単元の目標と観点別評価規準

○作者が仕組んだ構成や表現の工夫に注目しながら、ロングヒットの要因につながる、物語の「面白さ」を進んで見付け、読み味わおうとする。 (関心・意欲・態度)

○登場人物の心情や描写を捉え「面白さ」につながる優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。 (読むこと)

○物語の構成、比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
宮沢賢治のロングヒット作品に関心をもち、構成や表現の工夫に着目しながら作品を読み進めようとしている。	ロングヒットのひみつを構成や表現の工夫に着目して自分の言葉でまとめている。	ロングヒットのひみつが、比喩や反復などの表現の工夫にかかわっていることを理解している。

3 単元について

(1) 児童観 (平成 24 年 6 月 15 日実施 調査人数 25 人)

本学級の児童は、前単元「世界一やかましい音」において、物語の構成(設定ー展開ー山場ー結末)について学習し、物語文を全体から捉え解釈する力が身に付いている。しかし、登場人物の気持ちの変化が分かる叙述を本文中から見付ける問題で、7人が誤答するなど、人物の気持ちの変化を叙述に即して読み取る力が、まだ十分に身に付いていないと言える。

このような実態から、本単元では、物語の構成を捉えると同時に、叙述に着目し、作品の面白さにつながる表現の工夫を見付ける学習を通して、登場人物の相互関係や心情の変化について自分の考えをまとめる力を付ける必要がある。

(2) 教材観

宮沢賢治の代表的作品「注文の多い料理店」は、多くの世代に読み継がれている「ロングヒット作品」である。その理由は、「現実ー非現実ー現実」という物語の構成の仕方、次々に戸が出てくるテンポのよいストーリー展開、「おなかに(お腹に/お中に)」など二重の意味を含ませた表現など、作品の面白さにつながる作者の工夫を、読者が十分に味わうことができることにある。叙述に即して作品に仕掛けられた作者の表現の工夫を見付け出す学習に適した教材である。

(3) 指導観

指導に当たっては、「ロングヒットのひみつショーウィンドウ(立体型パンフレット)を書く」ことを、単元を貫く言語活動に位置付ける。そのために、第2次でショーウィンドウを書くために必要な作品の構成や表現の工夫を読み取るようにする。その際、

互いに読み取ったことを交流する活動を設定して、それぞれの考えが深められるようにしたい。「面白さのひみつに対する自分の考えを深める」という論点を明確にするために、付箋や模造紙を用いて思考の流れを可視化しよう工夫する。さらに第3次では、第2次で習得した面白さにつながる読みの視点を活用して、自分が選んだ賢治作品の面白さを捉え、ショーウィンドウにまとめる。その際には、「2段階にメンバーチェンジする交流タイム」による交流の場を設定し、助言をもらい推敲することで、思考したことをよりよい表現で表すことのできる能力の育成に迫っていきたい。

4 単元の指導計画（10時間扱い）

第1次 「ロングヒット作品ブックトーク」を聞き、単元のゴールをつかむ。・1時間

第2次 「注文の多い料理店」の面白さにつながる構成や表現の工夫を捉える。・・・・・・・・5時間

第3次 「ロングヒットのひみつショーウィンドウ」を書く。・・・・・・・・3時間

時	主な学習活動	評価規準
1	「注文の多い料理店・ロングヒットのひみつショーウィンドウ」を書き、書き方を学ぶ。	読む人にひみつが伝わるように、ショーウィンドウを意欲的に書き進めている。 (国語への関心・意欲・態度)
2	自分が選んだ賢治作品のショーウィンドウを書く。	構成や表現の工夫に着目しながら、ロングヒットのひみつを自分の言葉でまとめている。 (読む能力)
3	自分が作成したショーウィンドウを基に、「交流タイム」をし、書かれた内容について助言し合う。 (本時)	友達からの助言を生かしながら、ショーウィンドウに書いた内容を深めている。 (読む能力)

第4次 「ショーウィンドウ展示会」を開き、賢治作品に共通する「ロングヒットのひみつ」について考えを深める。・・・・・・・・1時間

5 本時の授業

(1) 目標

ショーウィンドウの下書きを友達と交流することを通して、自分が選んだ賢治作品の「ロングヒットのひみつ」の内容を、深めることができる。

(2) 主題に迫るための手立て

各自が書いたショーウィンドウの下書きを基に、メンバーを変えた2段階の交流タイムを設け、付箋にアドバイスを書いて交換し合う活動を取り入れる。

(3) 準備・資料

ショーウィンドウの下書き、付箋、模造紙、質問アイテム、アドバイスアイテム

(4) 展開

学習活動及び内容	指導上の留意点・評価
1 本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ロングヒットのひみつを取手市の人にしっかり伝えるには、どう書けばいいかな？ </div>	・取手市立図書館の写真を提示し、より多くの取手市の方に、自分が選んだ賢治作品の魅力伝える、という相手意識・目的意識を高められるようにする。

<p>2 解決の見通しをもつ。 〈ロングヒットのひみつ〉 ①構成や展開 ②題名のつけかた ③登場人物の性格・行動 ④会話文 ⑤語り口調</p> <p>3 友達と考えを交流し合う。</p> <p>(1) 【交流タイム1 (同じ作品同士)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流タイムの手引き ・質問・アドバイスアイテム <p>(2) メンバーを変えて交流し合う。 【交流タイム2 (違う作品同士)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留守番リーダー→説明役 ・旅人→他のチームのアドバイス役 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>〈旅人の付箋例〉</p> <p>「主人公の性格が面白さのひみつってあるけど、どういう性格か書いた方がいいんじゃない？」</p> </div> <p>(3) 全体で交流する。【全体タイム】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ロングヒットのひみつは～だけしか考えていなかったけど、〇〇さんのアドバイスを聞いて～も、ひみつに関係していると思いました。</p> </div> <p>4 考えを再構築する。【自分タイム】</p> <p>5 次時の学習への見通しをもつ。 賢治作品共通のロングヒットのひみつは何だろう？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までに学習した「ロングヒットにつながるひみつ」を「キーワードカード」として提示し、課題解決の手掛かりとなるようにする。 ・下書きは、事前に書いておくようにし、同じ作品を選んだ児童同士で、意図的にグルーピングしておく。 ・聞く側から「どういう風にした？」と尋ねるようにし、聞く意識を高める。 ・質問が考えられず戸惑っている児童には「質問アイテム」から使えそうなものを選ぶよう助言し、一緒に考える。 ・留守番リーダーは、他の班から来た「旅人」に、模造紙を見せながら説明するよう助言する。 ・「旅人」は、取手市民になったつもりで、ロングヒットのひみつが伝わるように書いているか確かめ、アドバイスアイテムを参考に、アドバイスしたことを黄色い付箋に書くように促す。 ・全体タイムでは、「はじめはこう書いていたけど、～というアドバイスをもらったので～を加えようと思った。」というように、内容が深まったり変容したりした児童を中心に取り上げるようにする。 ・交流タイムや全体タイムを通して考えたことを取り入れ、「ロングヒットのひみつ」を再構築して書くよう助言する。 <p>⑨ ロングヒットのひmitsの内容を友達からの助言を生かして、深めている。 (ノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次時は、ショーウィンドウを完成させ、展示会を開くことを知らせ、意欲をつなげていけるように締めくくる。
--	--

6 授業の実際

(1) 思考を可視化する交流の工夫

本時の目的は「ロングヒットのひmitsの内容を深めるための交流」である。内容を深めるために交流して友達から助言をもらう場面で付箋と模造紙を活用した。

友達の下書きを読んで「こう書いた方が分かりやすいな。」「ここはいらないかな。」

という助言を付箋に書き、模造紙に貼っていくようにした。このように付箋に書くことで、友達の考えが可視化できる。さらに、友達からもらった付箋を、模造紙上で分類したり、統合したりすることで自分の思考も可視化でき、自分が必要だと思う助言を取り入れ下書きの再構成に生かすことができた。

右の資料1は、もらった付箋を分類してみたことから「会話の文を書いた方がいい。」と、具体的な会話文を書くことについての助言が多いことが分かり、それを生かしてかきの会話文を下書きに入れた例である。

このように、交流場面において、自分の考えや友達の考えを、付箋や模造紙を活用して可視化させることにより、比較したり統合したり論理的に思考し、表現に生かすことができた。

(2) 2段階にメンバーチェンジする交流タイム

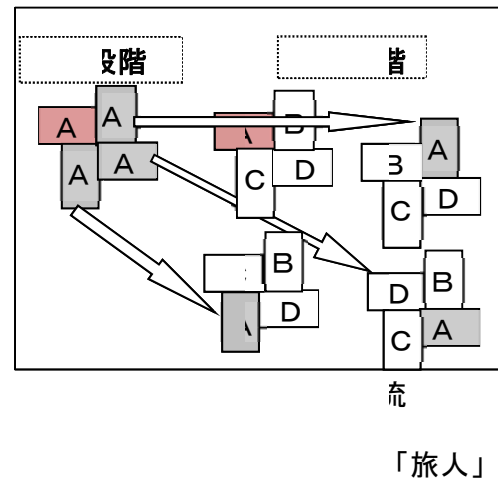
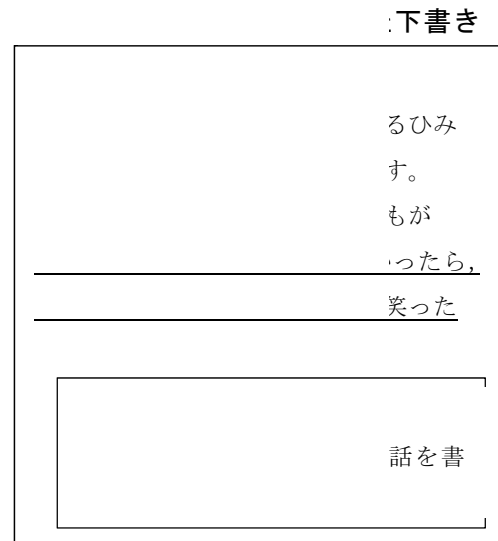
1段階のグループ交流は、同じ作品を選んだ児童同士で行った。同じ作品を読んだ児童同士なら内容に関するアドバイスをし合える。2段階の交流は、違う作品を選んだ児童で交流した。作品を知らない人にも、ロングヒットのひみつがはっきり伝わるように書けているか助言し合うためである。

図1のように、1段階のグループのうち一人が「留守番リーダー」として残った。残りは、「旅人」となり、違うグループに行く。そして、その下書きについての説明を聞き、助言をした。資料2がその時の様子である。内容を知らない立場から、「ここをもう少し詳しく書いた方がいい。」「具体的な会話を書いた方がいい。」など、1段階の友達とは違った助言をすることができた。そのため、下書きの段階でロングヒットのひみつの根拠がはっきりしなかった児童も、本文中から具体的な文章を引用することができるなど、ロングヒットのひみつを根拠を明確にして論理的に表現することができた。

さらに、交流後の児童の感想からも「同じ作品を選んだ友達からは、違ったアドバイスがもらえたので考えが深められた。」と、2段階で交流したことにより、論理的に思考することができたことがうかがえた。

(3) 「質問アイテム」、「アドバイスアイテム」の工夫

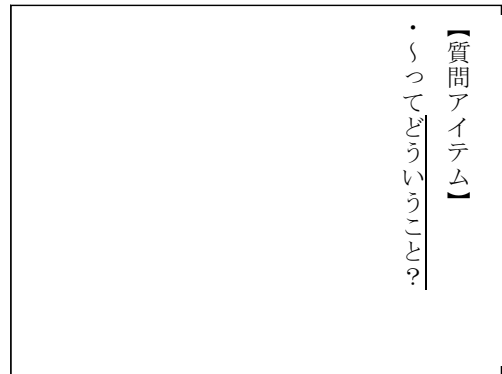
自分の考えを違った角度から検討したり、他の考えと比較したりするなど、論理的



に思考し、考えを深めるためには、交流において論理的な思考を促す質問や助言が大切である。そこで資料3のような「質問アイテム」,「アドバイスアイテム」を作成し、活用した。型にはまった形式的な交流にならないよう、普段の児童の話し言葉で提示したり、吹き出しの形にしたりした。

その結果、抽象的な表現の文に対して「～ってどういうこと？」と、具体的な表現を求める質問ができたり、「この部分は書かなくてもよいのでは。」というような、内容を整理する助言ができたりした。

「質問アイテム」,「アドバイスアイテム」を活用して、もらった助言を基に、下書きを再構築した。その結果、ロングヒットのひみつを物語の構成のみで捉えていた児童が、構成と会話文2点から捉えるようになった。このように、考えが広がった児童が7人、ロングヒットのひみつの根拠を、本文中の具体的な会話文から取り上げるなど、はっきりした児童が6人、あらすじのように長く書いていた文章が精選された児童が5人など、交流を通して様々な角度から論理的に思考することができるようになり、思考した結果を表現に生かすことができるようになった。



7 成果について

- (1) 交流の際、付箋と模造紙を用いて、思考を可視化したことにより、付箋の考えに合わせて移動できるよさを生かして、自分の考えや友達の考えを比較したり分類したり統合したりできるようになった。その結果、考えの根拠を示して論理的に思考する能力をはぐくむことができた。
- (2) 2段階にメンバーチェンジする交流タイムを取り入れたことにより、同じ作品を読んでいる立場からと、作品の内容を知らない立場からと、二つの立場からの友達の助言を得ることができた。特に、作品の内容を知らない友達との交流では、抽象的な表現では、面白さが伝わらないことがわかり、より具体的な表現へと変化していった。資料4は、変化した下書きを生かし、完成させた「ショーウィンドウ」である。2段階にメンバーチェンジする交流は、根拠を明確にして表現する能力を高めることにつながった。

- (3) 「質問アイテム」,「アドバイスアイテム」を工夫し、活用したことにより、どのような質問や助言をすると、互いの考えを深めることができるのかを児童が理解し、論理的な思考を促す交流を行うことができた。そして、自分の考えを再構築する際に、表現に生かすなど、表現する力を高めることができた。



【授業研究3】

論理的に思考し表現する能力をはぐくむ国語科学習指導の展開
－中学校第1学年「昔話のルーツを探る」における古文に書かれた昔話を
紹介し合う活動を通して－

1 単元名 昔話のルーツを探る

2 単元の目標と観点別評価規準

○古典の文章に興味をもち、進んで古典に触れようとする。 (関心・意欲・態度)

○紹介するために様々な種類の図書資料を読み、必要な情報を読み取ることができる。
(読むこと)

○古典には様々な種類の作品があることを知ることができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
昔話の基になった古文に興味をもち、進んで古典に触れようとしている。	昔話の絵本や現代語訳された図書資料から、聞き手に紹介する内容を読み取っている。	昔話の中には古典として読まれてきた様々な作品があることを理解している。

3 単元について

(1) 生徒観 (平成24年7月2日実施 調査人数30人)

実態調査では、21人の生徒が「古文は現在と違う言葉の使い方や読み方をする」ことを知っていると答えている。「今までに読んだことがある古文は何ですか。」(複数回答)では、「竹取物語」13人、「枕草子」1人、「平家物語」6人、「覚えていない」15人であり、読んでいても内容について覚えている生徒は少なかった。22人の生徒は「古文は難しい」と答えており、古文を読むことに抵抗がある生徒が多い。第1学年「紹介カードを作ろう」の学習では、紹介したい文や語句を読み取る学習で、根拠を挙げて情報を選べた生徒は6人、紹介したい内容は選べたが根拠が挙げられない生徒が15人、紹介する内容を選び出せない生徒が9人だった。また、図書資料に必要な情報が書かれているか判断する手立てとして、本の表題を見ると答えた生徒は26人だったが、目次、索引を活用すると答えた生徒は4人と少なく、必要な情報を集める方法が十分に身に付いていないと言える。

(2) 教材観

生徒は、小学校5年生で「竹取物語」、「枕草子」、「平家物語」の冒頭部分を音読し、6年生では、中国や日本の古典の名言を読み、古文のリズムや言葉の違いに触れる学習をしている。本教材は、中学校で初めて学ぶ古典作品である。「伊曾保物語」は、古代ギリシャの寓話集「イソップ物語」を翻訳したものであるため、生徒にとって親しみのある内容と言える。また、「わらしべ長者」や「浦島太郎」などは昔話として読んだ経験をもっており、古文と現代語訳を読み比べることで興味をもって読むことができると考える。

(3) 指導観

「グループで選択した昔話のルーツを中学2年生に紹介する」という言語活動を設定し、様々な図書資料から必要な情報を読み取る学習を展開する。まず、絵本と古文

を現代語訳した文章を読み比べ、昔話の原典の多くが古典作品の中にあることを知り、古文を読むことへの関心を高めたい。次に、現代語訳と古文を読み比べて共通点と相違点を読み取る。読み取った内容から紹介する場面を選び出したり、どのような順番で紹介するか決めたりする話し合い活動では、自分の考えをもってから話し合えるよう、初めに自分の考えを付箋に書き、互いに見合いながら検討できるようにする。最後に、中学2年生に紹介活動を行い、内容や発表態度について評価してもらうことで、学習活動への意欲をもって取り組めるようにする。聞き手に興味をもってもらえるか検討しながら紹介する内容を選び出し、友達と根拠を示しながら検討し合うことで論理的に思考する力を育み、工夫しながら紹介する学習を通して表現する力を育てていきたい。

4 単元の指導計画（5時間扱い）

- 第1次 「浦島太郎」の冒頭部分を読み、昔話の基になった古文について知る。 1時間
- 第2次 紹介する昔話について情報を集め、紹介する準備をする。 3時間

時	主な学習活動	評価規準
1	紹介する昔話について絵本や古典の現代語訳を読んで調べる。	紹介する作品に関わる図書資料に興味をもって読もうとしている。（国語への関心・意欲・態度） 昔話の内容や古文について様々な図書資料から読み取っている。（読む能力）
2	紹介する場面や内容、紹介する方法についてグループで話し合う。（本時）	図書資料から読み取った情報を基に、紹介する内容や場面を選び出している。（読む能力）
3	紹介する内容や場面の古文を音読練習し、発表の準備をする。	昔話には古典で書かれた様々な作品があることを理解している。（言語についての知識・理解・技能）

- 第3次 古典作品の面白さを中学2年生に紹介する。 1時間

5 本時の授業

(1) 目標

図書資料のどの場面や内容を紹介するか読み取りグループで考えを出し合い、話し合うことを通して、聞き手が興味をもつ内容を図書資料から選び出すことができる。

(2) 主題に迫るための手立て

話し合い活動では、紹介したい場面を黄色の付箋に、選ぶ理由を緑の付箋に書いて話し合い用ワークシートに貼り出すことで、視覚的に捉えながら考えを比較したりまとめたりできるようにする。

(3) 準備・資料

- 「伊曾保物語」：「蟻と蟬との事」、「蛙と牛との事」、「鶴と狐との事」
「宇治拾遺物語」：「こぶとり」、「すずめの恩返し」
「今昔物語」：「わらしべ長者」の図書資料（絵本と現代語訳）
学習計画表 ワークシート

(4) 展開

学習活動及び内容	指導上の留意点・評価
1 本時の学習課題をつかむ。	・前時に調べた内容から、聞き手に興味をもってもらえる内容を選び出すこと

紹介する場面を話し合っ
て決めよう。

2 自分の考えを付箋に書く。

- ・紹介したい場面とその理由を付箋に書く。

・お母さん蛙のお腹が割れるところを紹介したい。
→この話で一番興味をもってもらえるところだから。

3 5人グループで紹介したい場面を選ぶ。

- ・選んだ場面とその理由を順番に伝える。
- ・自分の考えと比較しながら聞く。
- ・疑問に思ったことを伝える。
- ・全員の考えを聞いた後、紹介する場面を選ぶ。

A：僕は、鶴が仕返しをするために狐を家に呼んだところを紹介したいです。理由は、ここから話がおもしろくなると思うからです。

B：狐が食べられなかった様子のところは古文で読んでも伝わるので、紹介に入りたいです。

4 次時の学習内容を確認する。

紹介するための準備をしよう。

- ・音読練習・発表練習
- ・自己評価を学習計画表に記入する。

を話し、学習活動に意欲がもてるようにする。

- ・絵本と現代語訳を読み比べながら、聞き手に興味をもってもらえる場面を選ぶよう指示する。
- ・発表の順番や司会者は決めず、自由な雰囲気の中で話し合えるようにする。
- ・話し合いでは、初めに選んだ場面とその理由を伝え、聞き手はその考えに対して疑問に思うことを質問するよう話す。
- ・付箋をワークシートに貼りながら自分の考えを伝え、同じ考え同士の付箋をまとめたり、友達の考えと自分の考えを比較したりしながら、どの場面が良いか考えられるよう話す。
- ・全員が考えを出し合ったところで、場面を選ぶポイントとして「聞き手が続きや他の場面を読みたいと思えるか」、「昔話に興味をもってもらえるか」などを提示し、紹介する場面を絞るよう指示する。

⑦ 必要な情報を得るために様々な図書資料を読み、紹介したい情報を選び出している。（観察、ワークシート）

- ・次時は紹介するための練習をすることとグループで工夫して紹介することを伝え、活動への意欲がもてるようにする。

6 授業の実際

(1) 単元を貫く課題解決的な言語活動

第1次で古文で書かれた「浦島太郎」の冒頭部分を全てひらがな表記し、提示した。生徒から「浦島太郎だ。」という発言が出たところでどこでそう思ったか発問し、考えを出し合った。古文中の「うらしまといふもの」、「うらしまたろうともうして」という言葉が出たところで「他にもヒントになる言葉はないか。」と尋ね、「おのこ」、「うみ」、「つり」などの言葉に気付けるようにした。生徒がよく知る「浦島太郎」が古文で書かれていること、自分たちで読めそうなことを確認した後、この他にも生徒がよく知る昔話が古文で書かれていることを伝え、「読んでみたい。」という意欲が高められるようにした。さらに、様々な昔話について知るために、グループで昔話を選び学級に紹介すること、昨年読んでいない2年生にも紹介することを伝え、どのよ

うな学習活動を行っていくのか、生徒が明確に意識できるようにした。

第1次の学習で、誰に向けて、何のために、何を、どのように読むのか生徒一人一人が意識できるようにすることで、主体的に学習活動に取り組めるようにしたいと考えた。また資料1の学習計画表を活用することで、生徒が学習の見通しをもって学べるようにした。

資料1 学習計画表

8 / 10	7 / 17	7 / 12	7 / 11	7 / 10	月日	学習計画表
5 昔話のルーツを紹介する。 ・中学二年生に興味をもってもらえよう工夫できた。 ・グループで協力して、紹介することができた。	4 紹介するための準備をする。 ・紹介する内容や場面の内容を確認し練習できた。 ・グループで協力して、紹介することができた。	3 紹介する内容を話し合う。 ・聞き手に興味をもってもらえる内容や場面を話し合ってみることができた。 ・どの部分でどのような方法で、何を説明して紹介するか決めることができた。	2 紹介する昔話について調べる。 ・グループで分担して、昔話の内容や、作品集について知ることができた。 ・今も読まれている、昔話のおもしろさについて知ることができた。	1 昔話のよみかたになる話について知り、グループで紹介する昔話を決める。 ・昔話には、もともとなる古い物語があることが分かった。 ・グループで紹介する昔話を決めることができた。	◎	◎
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
練習通りに発表できたので良かった。	発表の準備と練習ができて良かった。	紹介する内容を話し合ってみることができて良かった。	古い話と新しい話の違いを調べることができた。	昔話のよみかたになる話「こぶたのしんじいさん」を読んで、話を理解することができた。	◎	◎

学習後の意識調査（平成24年8月10日実施，調査人数28人）では、「紹介するために必要な情報を見つけて使うことができた。」、「紹介する相手のことを考えて情報を選ぶことができた。」（複数回答）と回答した生徒がそれぞれ26人だった。第1次から誰に向けて、どのような学習活動を、どのように進めていくのか生徒が意識しながら学習活動を行ったことが、聞き手を意識した読み取りの学習や紹介活動につながったと考える。

(2) 論点を明確にした交流活動

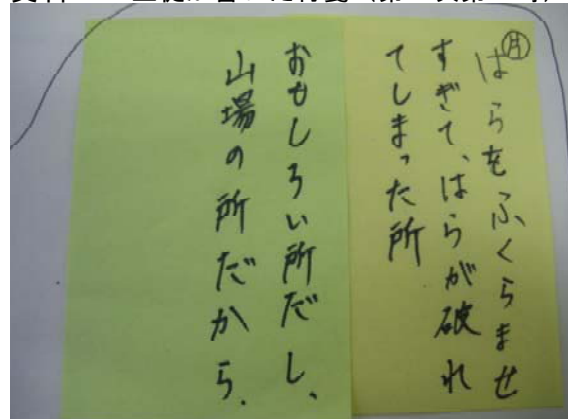
課題解決に向けての話合いにおいては、「何のために話し合うのか」を生徒が意識しながら行えるよう交流活動の工夫を行った。

意義のある話合いにするためには、自分の考えを事前にしっかりともっていなければならない。そこで第2次第1時の学習活動で、昔話と古文の現代語訳を比較して読み、話の面白さや、古文と現代語訳の表現や内容の共通点、相違点について読み取る時間を設定した。本時の学習活動では、各自が読み取った内容から「紹介したい場面や内容を選ぶ」という学習課題を提示し、話し合う論点を明確にして学習活動が行えるようにした。話し合う際には資料2のように紹介したい場面や内容は黄色の付箋に、選んだ理由は緑色の付箋に各自が書き入れ、それぞれの考えをA3サイズのシートに貼って交流した。付箋で視覚的に確認しながら話し合うことで、共通点や相違点が明確になり、同じ考えをまとめたり、紹介する順番を考えたりしながら話し合い活動を行うことができた。

場面や内容を選ぶ際には、「聞き手が続きや他の場面を読んでみたいと思えるか」や「昔話に興味をもってもらえるか」という場面を選ぶポイントを示し、聞き手を意識しながら、根拠をもって論理的に思考しながら選べるようにした。

この学習において、根拠を挙げて情報を選べた生徒は24人、内容は選べたが根拠が挙げられない生徒は6人、紹介する内容が選べなかった生徒はいなかった。このことから、聞き手を意識しながら、根拠を明確にして紹介する内容を選ぶことができたと考える。

資料2 生徒が書いた付箋（第2次第2時）



(3) 聞き手を意識した表現活動

資料3 話し合いの様子(第2次第2時)

第2次第2時の紹介する場面や内容についての話し合い活動では、資料3①②に示したように「みんな続きが気になると思うから〇〇にしよう。」「全部知ってしまったら面白くないから、最初の場面を紹介しよう。」という聞き手を意識した発言が各グループから出された。

また、紹介の仕方についての話し合いでも、資料3③にあるように「クイズ形式にしてみたら楽しく聞いてもらえる。」という意見や、④「みんなに分かるようにするためには、内容をとばしてしまったら伝わらない。」という言葉が出され、聞き手を意識しながら考え、表現活動につなげていく姿が見られた。

第3次の紹介する活動では、古文を登場人物ごとにセリフを分けて音読したり、紙芝居や劇に作り替えたりするなど、聞き手に分かりやすい紹介となるよう論理的に思考し表現することができた。また、クイズによる紹介のグループでは、2年生が答えを出しやすいようにヒントを考え、聞き手の関心を高められるように工夫する姿が見られた。

さらに、この紹介を通して、2年生に「ベストオブ読みたくなった昔話」を選んで、感想を書いてもらった。2年生からは、「現代文と古文では内容が違うことが分かって面白いと思いました。」「本当はギリギリスではなく蟬の話だと初めて知りました。」という、内容についての感想や、「古文がすらすら音読することができていました。」など、声の大きさや発表の態度についてアドバイスをもらい、興味をもって聞いてもらえたと実感できる活動となった。

7 成果について

- (1) 「グループで選択した昔話のルーツを中学2年生に紹介する」という単元を貫く言語活動を設定した結果、読み取った内容から興味をもってもらえる場面や内容を選び出し、友達と考えを交流しながら自分の考えを見直したり、よりよい考えを受け入れたりする論理的に思考する姿が見られ、聞き手を意識した表現活動につなげられた。
- (2) 話し合う場面では、付箋に自分の考えとその理由を書いてから話し合い活動を行ったので、自分の考えをもって話し合うことができた。また、紹介したい理由と根拠を色分けして見合うことで、視覚的に捉えながら、共通点や相違点を意識して、考えをまとめたり、順番を考えたりするなど論理的に思考することができた。
- (3) 紹介する相手や場面を意識しながら学習活動を進めることによって、話し合い活動では、聞き手を意識して分かりやすく興味をもってもらえるような内容や場面を選び出す姿が見られた。また、紹介の仕方についても、分かりやすさや伝わりやすさを意識し、論理的に思考し表現することができた。

生徒A:〇〇がいいんじゃない。わらしべ長者が一番幸せな場面だから。

生徒B:わらが、だんだんすごいものになっていくのがいい。
わらがみかん、布、馬になっていくところを伝えたい。

生徒C:若者の性格が優しいところを紹介したい。



生徒D:一番最初のところがいい。

生徒E:私も。

生徒B:理由を言って。

生徒D:みんな続きが気になると思うから。①

生徒E:僕もそう思う。

生徒D:全部知っちゃったらおもしろくないと思う。②

生徒C:紹介の仕方は問いかけしながらクイズにしていこうか。③

生徒A:いろいろ変わっていくので、もの大切さとかを言ってるのかな。

生徒E:クイズは何問にする?

生徒B:3問くらい?あんまり多くても解くのが大変だよ。

生徒A:「わらが何になるでしょうか」とか?

生徒C:とばしたらだめじゃない?④

みんなに分かるようにするんだから。

【授業研究 4】

論理的に思考し表現する能力をはぐくむ国語科学習指導の展開

－高等学校第3学年「小説を読む」における読みを深化させるための2段階の交流の工夫を通して－

1 単元名 小説を読む「ひよこの眼」

2 単元の目標と観点別評価規準

○小説を読んで、登場人物の行動や変化を的確に捉え、自分の考えを深め発展させようとする。 (関心・意欲・態度)

○小説を読んで、本文中の表現に基づく根拠をもって、書き手の意図を考えることができる。 (読む能力)

○登場人物の行動や変化、心情を表す表現を理解することができる。 (知識・理解) (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
小説を読んで、登場人物の行動や変化を的確に捉え、自分の考えを深め発展させようとしている。	小説を読んで、本文中の表現に基づく根拠をもって、書き手の意図を考えている。	登場人物の行動や変化、心情を表す表現を理解している。

3 単元について

(1) 生徒観 (平成24年7月9日実施 調査人数42人)

資料1 80字以内の記述式問題に対する得点率と人数に関する実態調査

登場人物の心情に関する理由を問う記述式問題の得点率と人数

ア 100%…0人 イ 80%…6人 ウ 50%…13人 エ 40%…6人 オ 30%…4人
カ 20%…6人 キ 無答…7人

資料1から記述式問題の結果を分析すると、小説における登場人物の心情に関して理由を問う問題では、得点率が30%以下の人数は17人と多い。この問題は、本文中に明確な手がかりがない登場人物の心情を答えるものである。このことから、小説において、言葉では明記されていないことを本文中の表現を基に、論理的に思考し表現する「読み」の学習が必要であると考えられる。

(2) 教材観

「ひよこの眼」は、現代の中学校が舞台となっており、生徒と同年代の人物が登場する小説である。そのため、内容把握が容易であり、事実確認に留まらず、書き手の意図についても考えやすい教材である。

(3) 指導観

論理的に思考し表現することに課題があるのは、今までの指導方法が大きく影響しているからだと考えられる。今までの授業は、生徒に文章中の語句や表現、文章構成を通して内容の理解を促す講義形式の授業が多く、生徒が主体的に考え、学ぶ機会が十分確保されていなかった。小説において、自分自身の読みを保障するには、他者に自分の読みを説明できなければならない。具体的には、論理的に思考し、読みの明確な根拠を示し、他者に説明することができなければならない。

そこで本研究では、高等学校第3学年「ひよこの眼」の学習において、本文中の表現に基づく根拠をもって書き手の意図を考え、交流する活動を展開する。そのために、まず、初発の感想を基に書き手の意図についてまとめる。このとき、生徒同士がそれぞれ目的意識をもって書き手の意図について交流し、その後の読みの深化を確認できるようにするため、単元の最後に「ひよこの眼」感想文集を作成することを話す。次に、書き手の意図について2段階の交流をする。2段階の交流は、まず同じような考えの生徒同士で行い、その次に異なる考えの生徒同士で交流をする。最後に、今までの交流を踏まえて二次感想文をまとめる。このような、本文中の表現に基づく根拠をもって、書き手の意図を考え、交流する活動を重ねることで、論理的に思考し表現する能力をはぐくむことができると考える。なお、ここまで生徒達の書いた感想を、まとめたものが、「ひよこの眼」感想文集である。

4 単元の指導計画（6時間扱い）

- 第1次 小説を読み、初発の感想を書き、学習の見通しをもつ。・・・・・・・・・・ 2時間
 第2次 書き手の意図について交流をする。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4時間

時	主な学習活動	評価規準
1	初発の感想を基に書き手の意図についてまとめる。	自分の読みを深め発展させるために書き手の意図を把握しようとしている。 (関心・意欲・態度)
2	書き手の意図について同じような考えの生徒と交流をする。	他の生徒の考える書き手の意図を理解し、自分の考えと比較して、参考にしている。(読む能力) 登場人物の行動や変化、心情を表す表現を理解している。(知識・理解)
3	書き手の意図について異なる考えの生徒と交流をする。 (本時)	他の生徒の考える書き手の意図を理解し、自分の考えと比較して、考えている。(読む能力) 登場人物の行動や変化、心情を表す表現を理解している。(知識・理解)
4	今までの書き手の意図の交流を踏まえて、二次感想文をまとめる。 (最終的には、読みの深化の過程を振り返るために、初発の感想文と二次感想文をまとめた文集を作成する。)	今までの学習を通して深め発展させた自分の読みについて、本文中の表現を用いて根拠を示し、考えを論述している。(読む能力)

5 本時の授業

(1) 目標

本文の表現を理解し、他の生徒が考えている書き手の意図と、自分の考えている書き手の意図とを比較し、他の生徒の考えの意図を理解することができる。

(2) 主題に迫るための手立て

各自が根拠をもって考えている書き手の意図について、グループの中で、お互いに感想と質問を書き込む。さらに、質疑応答の中で本文中の表現を根拠に示しながら説明したり、他の生徒の説明を聞いたりしながら、自分の考えについて再考し、加筆訂正する。

(3) 準備・資料

ワークシート

(4) 展開

学習活動及び内容	指導上の留意点・評価（評）
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <div data-bbox="256 405 791 501" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>他の生徒の考える書き手の意図を理解し、自分の考えと比較して考える。</p></div> <p>2 3人一組のグループになり、書き手の意図についての考えを交流し合う。</p> <p>(1) 各自でワークシートにまとめた書き手の意図を読み合う。</p> <p>(2) その際、各自の考える書き手の意図に対して、お互いのワークシートに必ず一つ以上感想と質問を書き込む。</p> <p>(3) 順に、自分の考えを説明し、さらに、質疑応答する。</p> <div data-bbox="256 954 791 1682" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>〈「書き手の意図」例〉</p><ul style="list-style-type: none">・大人や子どもに関係なく、生きているすべての者に共通する「生と死」を私たちに考えさせている。<p>〈感想例〉</p><ul style="list-style-type: none">・生と死について注目した点は同じであったが、自分とは根拠にした箇所が違ったので考えが広がった。<p>〈質問例〉</p><ul style="list-style-type: none">・「いつでも隣り合う生と死」という表現はどこを参考にしているのか。<p>〈質問に対する解答例〉</p><ul style="list-style-type: none">・人生を生きようとし、亜紀の隣に確かに存在した幹生が次の日に死んでしまうところを参考に隣り合う生と死という表現を使った。</div> <p>3 自分の考える書き手の意図と他の生徒の考える書き手の意図の違いを基に再考し、加筆訂正する。</p> <p>4 次時の学習内容を確認する。</p>	<p>・生徒同士が目的意識をもって書き手の意図について交流し、交流後の考えの変化が確認できるようにする。</p> <p>・書き手の意図について異なる考えの生徒で、グループを組んでおく。</p> <p>・学習の流れとその目安となる時間を提示し、生徒に見通しをもたせる。</p> <p>・相手が考えた書き手の意図の表現に即して、具体的に感想と質問を述べるよう助言する。</p> <p>・感想には、相手の意見のよいところを認める内容を述べるよう助言する。</p> <p>・質問を書き込むときは、相手が自分の考えを振り返り、本文を再度読み直すような内容を書くよう助言する。</p> <p>・書き手の意図を説明する際は、本文中の表現を用いて説明するよう助言する。</p> <p>・質問の応答について、本文中の表現を用いて答えるよう助言する。</p> <p>④ 本文の表現を理解して他の生徒の考える書き手の意図を理解し、自分の考えと比較して考える。 (ワークシート)</p> <p>・書き手の意図の交流を踏まえて、二次感想文を書くことを伝え、見通しをもたせる。</p>

6 授業の実際

授業において、特に工夫した点は以下のとおりである。

(1) 読みを深めるための交流の場の設定

書き手の意図について考え、グループで交流を行うことにした。自分自身の読みを他者に伝えるには明確な根拠を示すが必要になるため、交流により論理的に思考し表現する能力をはぐくむことにつながると考えた。

自分と他者の書き手の意図を交流させる場面では、質疑応答を中心にした。その際、他者が読みを深められるように配慮した質問を考える姿が見られた。

最後に作成した「ひよこの眼」感想文集では、生徒の読みに変化が表れており、交流が生徒同士の読みに影響を与えたことが分かった。

(2) 交流に主体的に取り組むための工夫

本単元では、生徒が、書き手の意図についての交流に主体的に取り組むために、初発の感想文と二次感想文をまとめ、「ひよこの眼」感想文集を作成することにした。

(3) 交流における論点の明確化

感想の交流では、比較し参考にして自分の考えに取り入れることが難しいため、ただ感想を述べ合うのではなく、書き手の意図を考えて行った。また、論点がある程度限定した方が交流しやすく読みが深化すると考えた。資料2～4の下線部は、読みが深化している部分を示している。

資料2の初発の感想では「悲しい」といった感情のレベルに留まっていたものが、資料3では書き手の意図を理解できるようになり、資料4の二次感想文では、本文中の表現を基に、自分の考えを分析的に論述できるようになっている。

(4) 交流を深めるのための工夫

本単元では、個人・グループでの活動を交互に取り入れる「2段階の交流」より読みを深める。

ア 初発の感想を基に、各自が自分の考える書き手の意図についてまとめる。

イ 書き手の意図について同じような考えの生徒同士でグループを作り交流する。

ウ イの交流を踏まえて、各自が自分の考えについて再考する。

エ 書き手の意図について異なる考えの生徒同士でグループを作り交流する。

オ エの交流を踏まえて、各自が自分の考えについて再考する。

資料2 初発の感想

S1：感情移入していた分、幹生の死にすごく驚いて悲しい気持ちになりました。

S2：なぜ亜紀はひよこや幹生の目が死を予期しているようだと思ったのか不思議に思った。

資料3 書き手の意図

S1：作者がこの小説を通して読者に考えさせようとしていることは人の死についてだと思います。

S2：作者がこの小説を通して伝えようとしていたことは生と死について考えることだと思う。

資料4 二次感想文

S1：この小説を読んで考えたことは、人との関わりと死についてです。(中略) 知らない他人が死ぬことよりも親密な関係の人が死んでしまうことのほうが悲しさや辛さが大きいというのを伝えたいのだと思った。

S2：私は、作者はこの小説を通して生と死について伝えようとしているのだと思った。(中略) 私はこの小説を読んで、生と死は自分の思い通りにならないものだと思った。

カ 今までの交流を踏まえて、各自で二次感想文をまとめる。

そして、それぞれの活動においては、以下のことに配慮した。

アでは、初めの自分の考えを確認した上で、深く考えられるよう配慮した。

イ、エでは、自分の考える書き手の意図を説明し、他の生徒の考える書き手の意図について質疑応答することにより、自分の考えを明確化すると同時に、他人の考えを知り、考えを深め、広げられるよう配慮した。

具体的には、書き手の意図に対する考えに基づき2段階の交流をした。資料5はそのときの様子である。1段階は同じような考えの生徒同士の交流とした。ここでは他者と自分の書き手の意図において、共通する点やその複数の根拠を確認し、質疑応答をすることで、自分の考えを一層明確にできると考えた。2段階は、異なる考えの生徒同士の交流とした。ここでは他者と自分の書き手の意図の相違点や複数の異なる根拠を確認して、質疑応答をすることで、改めて自分の考えを振り返り、考えを深め広げることができると考えた。そして、その後で二次感想文を書かせる意味は、自分の書き手の意図を説明するとき、同じような考えの生徒に対して説明するより、論理的に思考し表現する力をより必要とするところにあると考えた。



異なる考えの生徒同士の交流では、交流が活発となった。応答する立場の生徒は、自分の考えを理解してもらうために、同じような考えの生徒との交流のとき以上に、本文中の表現を根拠とし、論理的に説明しようと心掛けていた。

ウ、オでは、交流を踏まえ、書き手の意図に対する自分の考えを客観的に見直すよう配慮した。

カでは、全ての交流を踏まえ、自分の読みを客観的に見直すよう配慮した。グループ構成はそれぞれが発言できるよう3人とした。十分な質疑応答のためには、2、3人の人数が適当であると考えた。

7 成果について

授業において、特に工夫した点の成果は以下のとおりである。

- (1) 書き手の意図について考え、交流を行ったことで、生徒は一つの小説において多様な読みができることを知った。また、自分自身の読みを他者に理解してもらうためには、読みの根拠を明確に示し、表現を工夫する必要があることが分かった。
- (2) 感想文集を作成するという言語活動を設定したことで、生徒の中に目的意識が生まれ、自分の考えを他者と十分交流させることができた。また、生徒が学習の成果を振り返り、読みの交流の重要性を認識することができた。さらに、多様な読みの存在を理解することもできた。
- (3) 交流の論点を明確にするために、読みの交流を書き手の意図に限定して行ったことで、交流の論点が拡散せず、お互いの読みを比較し参考にすることを可能とした。
- (4) 書き手の意図に対する考えの交流を2段階に設定したことで、自分の読みを複数の異なる根拠の中で考えられるようになった。特に、異なる読みの生徒同士での交流を行ったことで、論理的に思考し表現することができるようになった。

3 研究のまとめ

国語科では、研究主題「論理的に思考し表現する能力をはくぐむ国語科学習指導の展開」に向け、交流する場の工夫と論点の明確化を図る授業づくりを中心にして研究を進め、小学校2校、中学校1校、高等学校1校で授業研究に取り組んだ。

以下、研究の取組から本研究実践について主な成果と課題を述べる。

(1) 成果

ア 課題解決に向けて、同じ考えや異なる考えの児童生徒と交流するような場を工夫していくことについて

- ・同じ考えや異なる考えの児童との交流の場を設定したことで、他者の考えを取り入れて、自分の考えを修正したり確かにしたりすることができ、一人一人が自信をもって自分の思いや考えを表現することにつながった。(小学校)
- ・2段階のメンバーチェンジをするグループ交流を通して、自分の考えを再構築したり考えを広げたりすることができ、論理的に思考し表現することにつながった。(小学校)
- ・グループで選択した昔話のルーツを中学2年生に紹介するという場を設定することで、古文を読む目的を明確にし、主体的な紹介の仕方を工夫することができた。(中学校)
- ・同じ考えや異なる考えをもつ生徒と、グループで交流することによって、他者と自分の捉えた書き手の意図双方をより深く考えることができ、論理的に思考し表現することができた。(高等学校)

イ 「比較する」、「順序立てる」、「分類する」、「関係付ける」、「推論する」などの思考の仕方を活用し、交流をする論点を明確にしていくことについて

- ・どこの叙述を基にキャッチコピーを作ったのか根拠を明確にし、作成したキャッチコピーを比較させたことにより、同じような表現でも異なった意味を表していることを理解していた。(小学校)
- ・作品の「ロングヒットのひみつ」を紹介するために、構成や展開、題名の付け方などを論点として付箋や模造紙を用いて交流活動を行うことは、様々な考えを自分の考えに取り入れながらよりよいパンフレットに再構成することにつながり、表現力を高めることができた。(小学校)
- ・付箋に書いた紹介したい場面やその選んだ理由の共通点や相違点を見付ける活動を通して、互いの考えを分類・整理したり、紹介する順番を考えたりしながら、論理的に思考することができた。(中学校)
- ・書き手の意図に限定して交流したことで論点が明確になり、互いの読みを比較したり関連付けたりして、多様な読みができた。(高等学校)

(2) 課題

以下の点を今後の研究にしていくことで、本研究を更に深化させていきたい。

- ・単元の導入において、児童生徒にとって必要感があり追究意欲を駆り立てられるような学習課題の提示や設定の仕方を工夫する。
- ・指導事項にふさわしい言語活動の種類とその特徴を教材研究する。
- ・単元や1単位時間の授業の中で、どの場面でどのような交流をすることが有効な

のか指導過程や交流の仕方について更に研究を深めていく。

- ・観点別学習状況評価の趣旨を踏まえた学習評価の妥当性，信頼性を高める評価について研究する。

<引用文献>

文部科学省「小学校学習指導要領解説 国語編」平成20年8月

文部科学省「中学校学習指導要領解説 国語編」平成20年9月

文部科学省「高等学校学習指導要領解説 国語編」平成21年12月

関係者一覧

1 研究協力員

行方市立太田小学校	教諭	井田 祥子
取手市立井野小学校	教諭	深澤 陽子
日立市立台原中学校	教諭	酒井 淳子
県立麻生高等学校	教諭	土屋 和佳

2 茨城県教育研修センター

所長	谷田部 佳見
教科教育課 課長	佐藤 誠
同 指導主事	菊池 英慈
同 指導主事	今瀬 一博